

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472900378
法人名	(株)ワークスジャパン
事業所名	グループホームささゆり
所在地 (電話番号)	志摩市磯部町恵利原126-16 (電話) 0599-55-1165
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 2 月 13 日(水)

【情報提供票より】 (H20年1月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 4人, 非常勤 11人, 常勤換算	14.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無 5年	
食材料費	朝食	100 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	2 名	要介護4	8 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	87 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	いせはまごうくらの内科 くまがい歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

志摩から伊勢へ向かう幹線道路に面して事業所がある。民家から少し離れたところにあり、近所との付き合いや買物には車が必要で多少不便と思われる。緑豊かな自然いっぱいの中にあり、現在整備中の事業所専用の庭園が完成すれば、さらにすばらしい環境になると思われる。開設後4年目を迎えるデイサービス併設の2ユニットのグループホームである。事業所内は1階がデイサービスで2階と3階がグループホームになっている。利用者各人の部屋には洗面所とトイレが備え付けられており、他の利用者に気を使う必要がないところが良い。男性職員が多く、若くて福祉に熱心で真面目な管理者の下、職員も利用者の力量に応じて支援しており、「人間関係がよいところが一番」と自信を持って応えてくれた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回調査の改善課題であった「地域の人たちとの交流の促進」は、近隣に人家のない環境に事業所があるため、事業所だけで容易に解決できる問題ではなく、時間を掛けて地域とのつながりをつくっていく努力をしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>管理者はじめ職員は調査の意義目的をよく理解し、職員全員で自己評価を行い、課題の改善に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年10月から2ヶ月に1回運営推進会議を継続して開催している。提供しているサービス内容を説明し、それについての積極的な意見をいただき、サービスの質の向上につなげている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時はもちろん、毎月の請求書と同時に一人ひとりの健康状態を記入した「連絡表」や「ささゆりだより」を送り情報を家族に提供すると同時に、苦情の吸い上げも行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議を開催することで、地域とのパイプも一部はつながりが出来たが、待っていても地域からは来てくれないので、事業所側から積極的に出向き、地域と交流する機会を増やす努力が望まれる。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員みんなで作った「ゆっくり生きましょ、あたり前に・・・」を基本理念としている。昨年から地域密着型サービスになったことを意識し、見直し等も行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員ともに理念は頭に入っており、日々実践できるよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を開催しており、自治会にも入っているが、近隣から離れているという事業所の立地条件からも地域との交流は多いとはいえない。	○	立地条件から、待っていても地域の方から来てくれることは少ないので、事業所側から積極的に地域と交流する機会を増やしていかなることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はじめリーダー(職員)は評価の意義をよく理解し、今回の自己評価も職員全員で行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、提供しているサービス内容を報告したり、出席者から積極的な提案もいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所職員とは運営推進会議のときしか関わっておらず、事業所と市役所担当者との交流(連携)は少ない。	○	事業所の管轄は市役所であり、事業運営やサービスの課題の中には市役所担当者と協議しながら一緒に解決していく必要が多いと考えられる。事業所の実情やサービスの取り組みを折に触れ伝える等、積極的に連携を取られることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や定期的に請求書を送るときに、本人の健康状態「お客様状況連絡表」や「たより」を送っているし、変化があるときは随時、連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口の設置や運営推進会議の席上、意見の収集をし、面会に来られたときに要望等がないかも確認している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動による利用者への影響を良く理解し、できる限り努力しているが、職員の定着率が悪く苦慮している。	○	定着率を上げる方策については、運営者・管理者ともに理解しており、近い将来良い方向に向かうべく努力されている。ぜひ早期実現を期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報は入っており、各々が自主的に受けることになっているが、職員数的に厳しく研修参加者が少ない。	○	職員を育てる取り組みは外部研修だけではない。現在の仕事をしながらレベルアップを目指す「OJT」にもぜひ取り組まれることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、志摩市の介護保険事業所連絡会への加入も念頭にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス利用者が入居されるときは問題ないが、そうでない時は見学や面接を繰り返しながら、できるだけ事業所の雰囲気に慣れてもらえるよう努力している。空き部屋があるときは体験入所も対応できるよう検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることは積極的にしていただくという姿勢であり、職員は利用者からいろんなことを、その時々教わる態度で温かく接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や日常の暮らしの雑談の中で、希望や意向の把握をするように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に2～3回職員全員会議を持ち、1回の会議で利用者一人を時間を掛けてチェックしている。家族の意見や職員の感じている課題をみんなで話合うことで、問題点を共有し、介護計画につなげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要な場合は随時行っているし、定期的な見直しは3ヶ月毎に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院援助を含め、入居者の希望を聞いてできるだけ対応している。また地域包括センター主催の講習会で事業所の見学や介護相談の役目も引き受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望のかかりつけ医としているが、事業所の協力医を希望される方が多い。協力医には2週間に1回往診に来ていただいているし、24時間連絡が取れる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と終末期対応について話したことはあるが、現時点では終末ケアの取り組みはないし、契約書への記載等、実施体制が整っていない。	○	重度化や終末ケアへの取組みも必要であり、事業所としての方向付け・検討を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーの尊重には常に気遣いしており、特にトイレ誘導には気を使っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れがあり、大きくはそれに従っているが、入居者のその日の希望に沿うよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食事の準備や食事もしているし、後片付けもしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴は可能であるが、概ね一日おきで昼からの時間帯になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者どうして決めて分担しており、洗濯物たたみや食器洗い、食材の買物等家事関係が多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日1～2時間食料品を買いに出かけるので、行きたい人は一緒に外出している。事業所の立地条件が悪く車で出かせないと散歩道がない。	○	職員も利用者も屋内に閉じこもった状態が続くとストレスがたまりやすく、日常生活の中で短時間でも戸外に出る機会を作ったり、地域の催しへの参加や地域とのふれあいを広める支援もお願いしたい。現在整備中である事業所裏側の専用庭園ができるのが楽しみである。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の前が幹線道路で車の量が多く、非常に危険であるが、施錠の弊害を理解され、玄関口の施錠はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と一緒に避難訓練を年2回実施しており、消防署の協力も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一般家庭のように冷蔵庫の中の残っている食材を確認し、利用者の希望を聞いてその日のメニューを決め、食材の買物に行く。体重管理や食事摂取量、水分摂取量チェックもしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで仕事をしている職員と話ができるように、すぐ後ろにソファが置いてあるし、利用者が息苦しく感じないように空間を多くした家具の配置になっている。壁の飾りつけも利用者との共同作業であり、少し離れた廊下にはイスを設け一人で過ごせる場所もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面とトイレが備え付けられており、個々人のプライバシーにも配慮されている。馴染みの家具やテレビを持ち込んでおられる居室もあり、本人好みの環境が作られている。		